

2024（令和 6）年度 卒業時アンケート調査結果の分析（保育学科）

保育学科 野呂祐人

2025 年 3 月 14 日に卒業した学生を対象に実施したアンケート調査の結果について、保育学科 47 名（回収率 96%）の内容に関して、以下の通り分析した。

設問 2「本学での授業や活動を通して、自身が成長したと思いますか」について

5 点満点で回答を求めた。その結果「5 点」が 48%(昨年度 58%)、「4 点」が 31%、「3 点」が 17%であり、「2 点」が 2%(1 名)であった。昨年度より「5 点」が 10 ポイントほど下がった。約 8 割の学生が自分自身の成長を感じていることがわかった。

設問 3「成長できた,と思うきっかけや経験を教えてください」について

自由記述で回答を求め、例年と同じく「実習での経験」について記述したものが多かったが、加えて「グループワークによる共同的な学びによって成長できた」「コミュニケーションの力が上がった」という意見も多く見られた。また、今年度の特徴として「自分の力で指導案が書けるようになった」「自分から意見を発信できるようになった」など、「主体性」に関する記述が増えたことが挙げられる。

設問 4「在学中に力をいれて取り組んだ項目を選んでください」について

選択式で複数回答を求めた。結果は昨年度と同様に「短大の勉強」(38 人)が最も多く、次いで「資格習得」(21 人)、「アルバイト」(19 人)と「就職活動」(19 人)、「友人づくり」(15 人)、「学内行事参加」(11 人)が多かった。昨年度との大きな違いは「就職活動」と回答した学生が多くなったことであり、就職支援への学生への関心が増え、就職支援に指導の質が向上していると考えられる。また「資格取得」を選択した学生が増え、履修に関するオリエンテーション等での資格の説明の改善などを行なった影響がわずかながらあったと考えられる。

設問 5「本学での授業や活動を通して身に付いたと考える項目を選んでください」について

ディプロマポリシーの 7 項目とその他を加えた 8 項目から、選択式で複数回答を求めた。その結果「知識」「技能」が身に付いたという回答が多く、次いで「コミュニケーション力」が多かった。「その他」以外の特段低い項目はないが、他の向上を目指し授業の改善を考えていく必要がある。

設問 6「本学の教育内容にどの程度満足していますか」および、設問 7「本学の評価できる、評価できない、不足している教育内容を記載してください」について

本学の教育内容について 10 点満点で評価を求め、評価できる点および評価できない点を記述してもらった。「10 点」と回答した学生は 31%、「9 点」は 15%と約半数の学生が本学の教育内容に特に満足していると言える。次いで「8 点」が 19%、「7 点」が 17%と、8 割以上の学生は本学の教育内容に特に満足しているという評価であった。一方で「5 点」が 13%いるため、一定数は満足していない層がいることも分かる。

評価できる点では、「ピアノの教育や設備」に関する記述が最も多かった。他にも「実践的な知識や技能を学ぶことができた」や「要望に対して迅速に取り組んでくれる」「Wi-Fi 環境の設備ができたこと」などの記述があった。評価できない点に関しては「時間割に関する不便さ」や「壁面やペープサート、工作に関する授業の不足」が多かった。ピアノに関する指導の多さや保育の技術に関する演習の多さから、「実践的な教育内容」に一定の評価がありつつも、現場で使える具体的な製作に関する授業が不足していると考えられる。また、Wi-Fi 環境についての評価もあり、授業以外の設備に関しても利便性を上げていく必要がある。

設問 8「もし身近に進学希望者がいる場合、本学を勧めたいと思いますか」について

5 点満点で回答を求めた。その結果「5 点」が 57%(昨年度 48%)、「4 点」が 21%であり、約 8 割の学生が勧めると回答した。昨年度と比べ「5 点」が 9 ポイント上昇した。

設問 9「卒業後の進路は希望に沿ったものですか」について

5 点満点で回答を求めた。その結果「5 点」が 65%(昨年度 51%)、「4 点」が 19%であり、8 割以上の学生が希望通りの進路だと感じている。「5 点」の割合は昨年度に比べ 14 ポイント上昇し、就職に関する支援の質が向上していると考えられる。今後も S・L 教員を中心とした、学生一人一人のニーズに応じた就職支援の体制を継続していきたい。

設問 10「函館短期大学に入学してよかったと思いますか」について

5 点満点で回答を求めた。その結果「5 点」が 68%(昨年度 68%)、「4 点」が 17%(昨年度 26%)であり、8 割以上の学生が入学してよかったと感じていることが分かった。評価が大きく向上した昨年度に比べ「4 点」が 11 ポイント下がり、例年通りの評価に落ち着いた。今後も「5 点」と回答する学生の割合が増えるように、日々の授業力の向上を図るとともに、卒業を見据え丁寧な進路指導を行っていきたい。

全体を通して

アンケート全体を通し、「入学してよかった」と回答した学生が 8 割を超え、学生は学校生活を概ね満足していることが伺える。昨年度に比べ若干下がった項目があるが全体として低くはなく、質の高い教育を維持することはできていると考える。

特記事項として、設問 4 や設問 9 から、就職支援に関する評価が上がっていることがわかる。設問 8 の「進学希望者へ本学を勧めたいか」については上昇していることも鑑み、自身の成長だけではなく安定して就職ができるかどうか、という点への関心が例年よりも高くなっている可能性がある。

また、僅かな変化ではあるが設問 3 で「主体性が身についた」という記述が増えた。実習の評価では「主体性」の項目が下がっており、学生が 2 年間の学びの中で「主体性が身についた」という感想を抱くことに繋がっていると考えた。このことから入学時点で「主体性」が低く短大の教育で「主体性」を身につけていく世代と捉えることができ、それ踏まえた指導や演習の内容を組んでいく必要があると考える。

自由記述欄では本学を評価している回答が大半であるが、評価していない回答も極めて少数であるが見られた。改善が求められる点についてはより多くの学生が満足できるようにできるところから対応していきたい。

2024（令和6）年度卒業時アンケート調査結果の分析（食物栄養学科）

食物栄養学科 伊木亜子

2025 年 3 月 14 日に卒業した学生を対象としたアンケート調査の結果について、食物栄養学科 43 名（回収率 96%）の内容に関して、以下の通り分析した。

設問2「本学での授業や活動を通して、自身が成長したと思いますか」について

5 点満点で回答を求めた。その結果「5 点」が 49%（昨年度 47%）、「4 点」が 37%、「3 点」が 14%であり、「2 点」、「1 点」はいなかった。昨年度より「5 点」が 2 ポイント上昇し、約 8 割の学生が自分自身の成長を感じていることがわかる。

設問3「成長できた、と思うきっかけや経験を教えてください」について

自由記述で回答を求めた。回答数 36 件のうち、36%が資格取得や学業など「専門知識や技能の獲得」に関するものであった（昨年度 53%）。次いで、協調性と主体性の獲得や、努力することなど「行動変容」に関する成長実感が 19%、「校外実習や教育実習での経験」に関するものが 14%であった。また、「ボランティア活動での経験」に関するものが 11%であった。

設問4「在学中に力をいれて取り組んだ項目を選んでください」について

選択式で複数回答を求めた。結果は「短大の勉強」が最も多く（34 人）、次いで「資格習得」（21 人）、「アルバイト」（19 人）、「W スクール」（11 人）であった。また、「就職活動」（9 人）、「ボランティア活動」と「友人づくり」（どちらも 8 人）、「学内行事参加」（5 人）であった。

設問5「本学での授業や活動を通して身に付いたと考える項目を選んでください」について

ディプロマポリシーの 7 項目とその他を加えた 8 項目から、選択式で複数回答を求めた。その結果、「知識」、「技能」および「コミュニケーション力」が身に付いたという回答が多く、一方で「表現力」は少数であった。

設問6「本学の教育内容にどの程度満足していますか」および、設問7「本学の評価できる、評価できない、不足している教育内容を記載してください」について

本学の教育内容について 10 点満点で評価を求め、評価できる点および評価できない点を記述してもらった。平均点は 7.91 点であり、8 点の回答数が 37%と多く、5 点以上が 96%であった。

設問7では 17 件の回答があり、評価できる点は 7 件あり、実習や学習内容の充実や、コミュニケーション能力の向上が挙げられた。不足している点は 7 件あり、レポートの電子化や就職活動への支援、授業内容に関する意見があった。

設問8「もし身近に進学希望者がいる場合、本学を勧めたいと思いますか」について

5 点満点で回答を求めた。その結果「5 点」が 21%、「4 点」が 49%、「3 点」が 21%、「2 点」「1 点」が各 5%であった。

設問9「卒業後の進路は希望に沿ったものですか」について

5点満点で回答を求めた。その結果「5点」が58%、「4点」が19%であり、概ね希望通りの進路だと感じていることが示された。

設問10「函館短期大学に入学してよかったと思いますか」について

5点満点で回答を求めた。その結果「5点」が58%、「4点」が26%、「3点」が12%、「2点」「1点」が各2%であった。

全体を通して

アンケート全体を通し、「成長できた」と感じている学生が8割であり、本学の教育内容に対する満足度は過去3年間において平均的であった（2023年度は約8割、2022年度は約9割）。

学生生活に力を入れて取り組んだ項目は、「短大の勉強」が最も多く例年と同様の傾向であった。一方、昨年度と変化した項目では「ボランティア活動」「友人づくり」「学内行事参加」への取り組みが示された。新型コロナウイルス感染症に対する学生生活の制限が緩和され、種々の活動機会が増加したことや、学友会を中心とした学内行事へ参加する取り組みが有効であったと考える。

満足度では、過半数以上が満足しており、実習や学習内容の充実や、コミュニケーション能力の向上を実感できたことが示されていたが、教育内容として評価できない・不足している点では、レポートの電子化や就職活動への支援を求める意見や、授業内容については重複している点や必要性を感じられない取り組みについて意見があり、課題の整理が必要である。また、「入学してよかった」と実感した学生は約8割、本学を「勧めたい」という意見は約7割であり、いずれも例年と同様に肯定的な評価を示した。一方で、低評価の意見も一部見受けられ、これらの点についても慎重に検討する必要がある。

以上より、学生が成長を実感し満足度を高め、卒業生が本学を強く勧めたいと考えられるよう、教育と就職に対し丁寧な支援を継続するとともに、楽しく充実した学生生活を実現する機会を提供することが重要である。

以上